

問い合わせ先

交通部安全課

課長補佐 上村 淳（重点項目 1 関係）

代 表 . 3591-6361（内線6302）

夜間直通 . 3591-2776

警備救難部救難課

課長補佐 堀井 和也（重点項目 2 関係）

代 表 . 3591-6361（内線5901）

夜間直通 . 3591-7942



平成 22 年 7 月 1 日
海 上 保 安 庁

平成 22 年度全国海難防止強調運動の実施について

7 月 16 日（金）から 31 日（土）までの間、官民一体となって全国各地において全国海難防止強調運動を実施します。

今年は、次の項目を重点に取り組んでまいります。

- 1 見張り不十分又は操船不適切による衝突海難の防止
- 2 海中転落した遭難者が無事生還するために有効なライフジャケット着用の推進等

【運動の趣旨】

海難を防止するためには、船舶所有者、運航者をはじめとする海事関係者、漁業関係者、マリナー関係者など、船舶運航に直接関わる方はもとより、海運、漁業活動の恩恵を享受している国民の皆様にも、海難防止について関心を深めていただくことが極めて重要です。

このため、海の月間の時期に合わせて、「海難ゼロへの願い」をスローガンに官民の関係者が一体となって、海難防止思想の普及、高揚を図ることを目的とした全国海難防止強調運動を実施します。

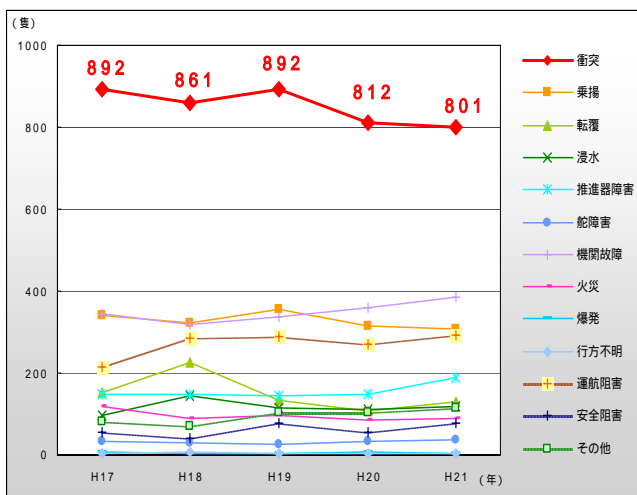
【重点項目】

1 見張り不十分又は操船不適切による衝突海難の防止

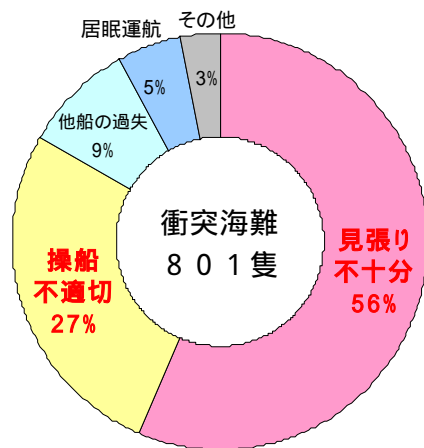
過去 5 年間の船舶海難の発生状況を見ると、大型船及び小型船ともに、船舶海難の種類は衝突海難が最も多く、その原因の 8 割以上が見張り不十分及び操船不適切です。

このような状況を踏まえ、「見張り不十分又は操船不適切による衝突海難の防止」を重点事項に定めるとともに、次のとおり推進項目を設定し、「しっかり見張って早めの回避、あなたの安全・家族の安心」をキャッチフレーズに積極的に運動を展開することとしています。（推進項目）

- ・ 常時適切な見張りの徹底
- ・ 避航船は早めに相手にわかりやすい動作を、保持船も協力動作をとることの徹底
- ・ 船舶間のコミュニケーションの促進
- ・ AIS（船舶自動識別装置）の有効活用の促進



過去5年間の海難種類別発生隻数



平成21年の衝突海難の原因

2 海中転落した遭難者が無事生還するために有効なライフジャケット着用の推進等

海中転落した遭難者が無事生還するためには、海面に浮いて救助を待つためのライフジャケット着用、海難等を迅速に通報するための防水パック入り携帯電話等の連絡手段の確保及び緊急通報電話番号「118番」の有効活用が重要であるため、これらを3つの基本とする自己救命策確保を推進項目として設定し積極的に運動を展開することとしています。

【活動内容】

期間中、官民の関係者が一体となって、次の活動等に取り組みます。（詳細につきましては、近隣の海上保安官署にお問い合わせください。）

(1) 安全に関する指導、教育、訓練等

訪船・現場指導、海難防止講習会、海上安全教室、水難救済ボランティア教室、人命救助訓練等。

(2) 広報活動

イ テレビ、ラジオ、新聞、地方自治体の広報誌等を通じた本運動の広報。

ロ 官公署、駅構内、マリーナ、漁協等国民の目につきやすい場所へのポスターの掲示。

ハ ホームページ、MICS（沿岸域情報提供システム）、電光表示板等を利用した本運動の周知。

ニ 海の相談室（臨時に開設したものを含む）へのポスターの掲示、関連する各種パンフレット・リーフレットの備え付け、自己救命策確保関係の展示等による本運動の周知

昨年度の実施風景

海難防止講習会



一日海上保安官による海難防止の呼びかけ



訪船指導



海上安全指導員との合同パトロール



ライフジャケット着用の推進



ライフジャケットを着用した人命救助訓練



しっかりと見張って早めの衝突回避

あなたの安全・家族の安心

大切な命！自分で守る

ライフジャケットはあなたの命を守ります

海難0への願い

2010年度ミス日本「海の日」 鈴木亜美

全国海難防止強調運動

平成22年7月16日～31日

主催／海上保安庁 (社)日本海難防止協会 (財)海上保安協会
後援／総務省 文部科学省 水産庁 国土交通省 海難審判所 気象庁
運輸安全委員会 (財)日本海事センター



海上保安庁
JAPAN COAST GUARD